

2 高森町の概観

(1) 町の沿革

本町は代々阿蘇家一族の統治下にあった。その後、加藤清正の領地、江戸時代は細川家の所領となりその政治は、明治初年に及んだ。

昭和28年、高森町・色見村・草部村、昭和32年、野尻村を合併して現在に至っている。

(2) 町の位置



標高 530m (色見・高森地区平均)

標高 680m (野尻・草部地区平均)

耕地 南郷谷部の平坦地と外輪山上の谷間に散在
川の源流 白川・五ヶ瀬川・大野川の源流
山林原野 総面積の76%

(3) 町の人口の推移 (過去10年)

平成25年	7,066人
平成26年	6,975人
平成27年	6,863人
平成28年	6,743人
平成29年	6,613人
平成30年	6,492人
平成31年	6,394人
令和2年	6,303人
令和3年	6,197人
令和3年	6,084人

(調査統計毎年3月末日現在)

(4) 町の福祉

町には特別養護老人ホーム【2】、障がい者支援施設【1】、幼稚園・保育園【4】等がある。また、デイサービス事業、ホームヘルパー派遣事業なども行っている。

(5) 町の暮らし

- ① 現在、本町には120余の商店があり、年間約69億6千万円の売り上げがある。工業では酒、味噌醤油製造業などの地場産業が中心だが、工業団地への企業進出もあり、町の経済力の向上、就労機会の拡大が期待される。
- ② 広大な草地を生かした赤牛の生産飼育、キャベツ・大根・白菜の高冷地野菜作りが盛ん。最近では苺、メロン、花木等のハウス栽培の導入も進み、高品質の産品が出荷されている。林業では有名優良な品種のメアサ(杉)やナンゴウヒ(檜)が植林されており、生産、加工販売までの一貫した生産流通体制がとられている。

(6) ふるさと自慢

阿蘇五岳のひとつ根子岳の麓に広がるすばらしい自然環境。ペンション・キャンプ場などの大自然の中のレジャー施設。

平成11年度は「くまもと未来国体」のテニス会場になった。

さわやかな夏を走るトロッコ列車。高森駅は南阿蘇メルヘンの旅の始発駅である。

新緑の草原に可憐な花を咲かせるのは町の花「ヒメユリ」。

(7) ふるさと味自慢

採りたての山の幸、ヤマメや芋などを炭火であぶって食べる田楽。香ばしさがたまらない。700年の歴史をもつ味である。味噌醤油も地元産。漬け物は昔ながらの家庭の味。お土産にもなった。

(8) ふるさとの祭り

風鎮めと五穀豊穰を願う「風鎮祭」をはじめ、勇壮な風鎮太鼓や色見の「飯食い祭り」等があり毎年観光客で賑わっている。2月には高森町の新酒祭りが開催され、町内外問わず多くの観光客が訪れる。

(9) 高森の子ども

小学校1校、中学校1校、義務教育学校1校、高校1校、幼稚園1園、保育園3園がある。子どもたちが「個性豊か」に、「心身ともに健やか」で、「心豊かに育つ」ようにと教育環境や施設の整備に力を入れている。「高森に誇りを持ち、夢を抱き、元気の出る教育」をキャッチコピーに高森町新教育プラン(第三次)を策定し、高森町の未来を担う子どもの育成に力を入れている。

町民憲章

- 1 水と緑と土の匂いっぱいの住みよい町にします。
- 2 伝統を重んじ、文化の薫る潤いのある町にします。
- 3 老人を大切に、子どもの夢を育て幸せな町にします。
- 4 勤労を尊び、産業を振興し活力のある町にします。
- 5 スポーツに親しみ、心身を鍛え健全な町にします。

「野の花と風薫る郷」

(高森町キャッチフレーズ)

